

医療現場の洗浄と滅菌業務

組立 I 点検とメンテナンス

第1版 2023年12月

滅菌管理業務検討委員会

【研修の目的】

- 医療現場での組立業務で行うRMDの点検箇所、メンテナンス方法について基礎知識を理解する

【学習目標】

- RMDに関わる用語や点検箇所を理解し確認できる
- RMDの特性や注意点を理解し、メンテナンスすることができる

【点検の役割】

- 汚れが残っていると、滅菌効果に悪影響があり、RMDの劣化にも繋がります。清拭や再洗浄など必要な処置をしましょう。外観にキズや変色などの異常を発見した場合や、使用に障る不具合があった場合、使用中に破損し、実害が発生することがあります。また、正しいメンテナンスはRMDの寿命を延ばします。RMDによって異なるメンテナンスを理解しましょう。

【基本的な点検内容 鋼製RMD編】

- 例) 鉗子 (カンシ)

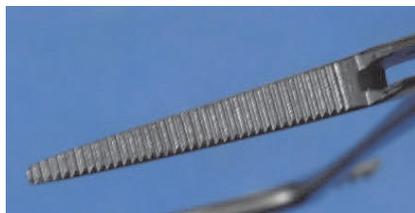
ボックスロック部(関節部)



把持部 かみ合わせ確認

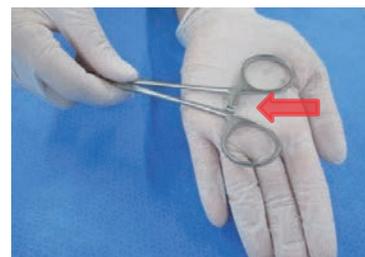


溝の摩耗
汚れでつまっていないか確認



汚れが残りやすく錆びやすい。
また、ヒビも入りやすい。動作がスムーズに行えるかも確認が必要

ラチェット部



ラチェットを一段掛けた状態で、把持部を持ち、掌に数回軽く打って外れてしまったらNG

RMDの点検とメンテナンス

【ステンレスの特性】

- 鋼製RMDの材質に多く使用されているのがステンレスです。ステンレスとは鉄とクロムの合金で、クロムと酸素が反応することで生じる不導態皮膜という酸化被膜に守られることで錆びにくいとされています。しかし、汚染物や水分などが残っていると、不導態皮膜が破壊され、鉄の酸化が進み、腐食につながります。器材についた汚染物や水分は速やかに除去しましょう。

【RMDの点検】

• 完全に乾燥していますか？

濡れていると滅菌時に悪影響を及ぼします。また、長時間の乾燥不良は劣化や錆の原因となります。**乾燥器**や**エアーガン**を用いて水分がなくなるまで、乾燥させましょう。

• 目視で確認できる汚れはありませんか？

洗浄器は万能ではありません。汚れが残っている場合は、再洗浄しましょう。

• 錆は発生していませんか？

錆も異物です。しっかり除去しましょう。

• 破損はありませんか？

ヒビ割れや欠けていることがあります。このような破損があると、滅菌時や使用時に壊れることがあり、危険です。修理もしくは買い替えを検討しましょう。

• かみ合わせはずれていませんか？

先端がかみ合わない場合があります。修理を検討しましょう。

• 用途に応じた動きをしますか？

変形して組み立てられないことや、正常に動かないことがあります。組み立てが必要なRMDは、組み立て後に必ず動きを確認しましょう。

乾燥器

- 乾燥器内は乾熱状態です。鋼製でないRMDは、湿熱である蒸気滅菌に対して耐性があっても、溶けてしまう事があります。材質を理解して使用しましょう。また長時間の乾燥は、RMDにとって負荷が大きくなります。適宜乾燥状態を確かめましょう。熱源付近は高温になりやすい為、予め位置を確認しましょう。

エアーガン

- エアの勢いが強いと、小さな部品を吹き飛ばして紛失してしまうことがあります。注意して使用しましょう。

点検と確認は、
安心・安全に
欠かせません！



RMDの点検とメンテナンス

【点検時に発見したい腐食事例】

ヒビ（腐食割れ）

錆や孔食が原因の場合もあれば、ネジ止め部など弱い部分に発生することがあります。滅菌では、RMDに相当な負荷が加わります。小さなヒビが原因で折れてしまう事もあるので要注意です。



錆

ステンレスは錆びにくい素材ですが、錆びないわけではありません。液体に長時間さらした場合や、摩擦部に生じやすいため、確認しましょう。



もらい錆

錆びたRMDと共に滅菌すると、錆がうつります。



孔食（コウシヨク）

腐食によって表面に虫食い状の微細な穴が発生した状態です。



RMDを長持ちさせるために、しっかり腐食を見つけましょうね！



RMDの点検とメンテナンス

【RMDの点検ポイント】

剪刀（セントウ）

※分解できるタイプもあります。



【刃の点検ポイント】

点検ポイント①

刃こぼれがないことを確認しましょう。

点検ポイント②

先端や刃の途中に変形がないことを確認しましょう。

点検ポイント③

べたつきや、汚れが残っていないことを確認しましょう。

点検ポイント④

噛み合わせを確認しましょう。



ガーゼなどを用いた試し切りで、刃渡りの先端、中央、後方までしっかり切れることを確認します。切れ味が悪い場合は、修理・研磨に出しましょう。紙での切れ味チェックはNGです。

【関節部の点検ポイント】

点検ポイント①

緩すぎる場合は、ネジを締めて調整しましょう。摩耗が原因の場合は、修理もしくは廃棄を検討しましょう。

点検ポイント②

硬すぎる場合は汚れの残りや錆を疑いましょう。再洗浄するか、もしくは潤滑剤を塗布してみましょう。



完全に閉じないところで止まるのが良いとされる

RMDの点検とメンテナンス

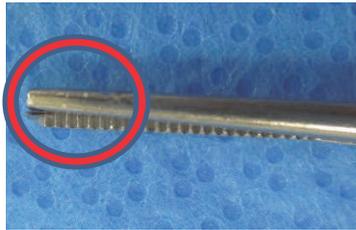
【RMDの点検ポイント】

鑷子（セッシ）



〔把持部の点検ポイント〕

①



②



③

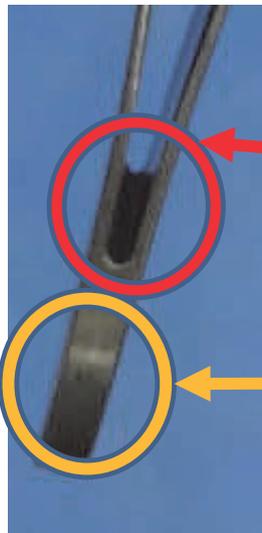


把持した際に、

①かみ合わない ②そり返って把持出来ない場合は、
修理が必要です。

③両先端に鉤がある鑷子もあります。鉤が欠けていないこと
を確認しましょう。

〔貼合わせ部の点検ポイント〕

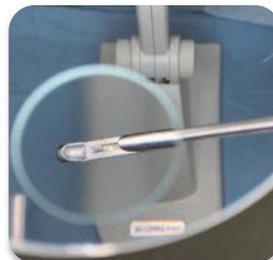


点検ポイント①

貼合わせ部には、汚れが残ることがあります。乾燥し難い部分でもあるので確認しましょう。

点検ポイント②

貼合わせている為、劣化によって錆が出やすい部分です。



拡大鏡は
必須アイテムね！



RMDの点検とメンテナンス

【RMDの点検ポイント】

持針器 タイプ1



〔把持部の役割と特徴〕

把持部の構造は格子状・横溝・溝なしなど様々です。溝は、針をしっかり把持するために必要です。摩耗していると、うまく把持することができず、針が不安定になります。コンディションを確認して、適宜修理をしましょう。

- ・ **タングステンカーバイト**
ステンレスより柔らかく、貼り付けて加工されている為、欠けや剥がれが起きやすいです。
- ・ **ステンレススチール**
貼り付け加工はありません。

貼り付け加工あり



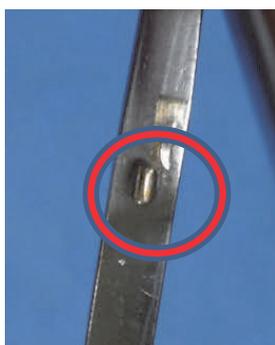
貼り付け加工なし



持針器 タイプ2



点検ポイント①
バネの役割をしている部分です。外れるタイプもあります。本体と接触する箇所に擦り傷がつきやすく、腐食することがあるので確認しましょう。



点検ポイント②

バネを固定する部分は擦れることで傷がつきやすい。腐食することがあるので確認しましょう。



点検ポイント③

バネをネジ留めしている場合は、ネジが緩んでいないことを確認しましょう。